

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22 年 3 月 2 日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	きらら・ラポール尾道 (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 延平 和子 氏名 羽原 高代
事業所側対応者	職名 管理者・計画作成担当者・ユニットリーダ 氏名 生田 誠・野口 笑・本谷 奈緒美 ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [きららラポール尾道] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3491100065
法人名	株式会社 誠和
事業所名	グループホームきららラポール・尾道
所在地	尾道市十四日59番地8 (電話) 0848-24-2641
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成 22 年 3 月 2 日

【情報提供票より】 22 年 2 月 1 日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 20 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 16 人 非常勤 7 人 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 7 階建ての ・ 階 ~ 2 階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	有 (348,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時並り か)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	420 円	昼食	525 円
	夕食	735 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	10 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾道市民病院 他5病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日平成 22年 3月 30日

住宅街の高台に位置し併設事業所(デイサービス・有料老人ホーム等)がありひと際目を引く建物である。ラドン温泉やジャグジーバスが完備され、屋上庭園などにも散歩ができ、利用者がゆとりある暮らしができる設備があり、楽しみとなっている。事業所内はゆったりとした空間で広いテラスがあり眺望もよく利用者がのびのび暮らすことのできるスペースがある。利用者の機能維持に努め専門員による運動指導を受けたりハビリ体操は個別に実施し、お茶うがいや口腔体操を行いきめ細かいケアがされている。カンファレンスには医師、看護師、管理栄養士による専門的な意見を取り入れた内容となっておりそれぞれの専門的な立場で利用者の状態を詳細に把握でき、安心して利用者を楽しみ人生を送ってもらえるように日々心通うケアを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点は職員に周知し全て改善されていた。運営推進会議の中でも議題とし、現状に留まることなく今後も質の向上を目指していく。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価・自己評価の意義は理解し、活用するよう努めている。自己評価は職員から聴取した内容を集約し作成したものを更にミーティングで確認した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回利用者家族、地域住民(複数)、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター等の参加で細やかな現状報告や職員研修内容、事業計画、アンケート結果、外部評価結果等詳細に報告している。参加者からも活発に意見が出、有意義な会議内容となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時、苦情窓口を重要事項説明書に明記し利用者、家族に説明をしている。何でも遠慮なく言ってもらえるよう折にふれ伝えている。また生活状況等を伝える中で意見要望をくみ取ったり、アンケートを実施し内容は職員で周知しそれらを運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭り等の行事に利用者と共に参加し交流に努めている。併設事業所と合同で行われるもちつきや夏祭り、うどん作り等地域の方に参加してもらい気軽に訪問してもらえるよう取り組んでいる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共に検討し作成した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のフロア会議の中で理念にふれた内容の話をし共有に努めている。又ミーティング時に理念を唱和し意識付けをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り等の行事に利用者と共に参加し交流に努めている。併設事業所と合同で行われるもちつきや夏祭り、うどん作り等地域の方に参加してもらい気軽に訪問してもらえるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価の意義は理解し、活用するよう努めている。自己評価は職員から聴取した内容を集約し完成したものをミーティングで確認した。昨年の外部評価はすべて改善に向け取り組まれていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回利用者家族、地域住民（複数）、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター等の参加で細やかな現状報告や職員研修内容、事業計画、アンケート結果、外部評価結果等詳細に報告している。参加者からも活発に意見が出、有意義な会議内容となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例や様々な相談で行く機会が多く、顔なじみの関係ができる。行政担当者と連携が取れサービスの向上に活かしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に『かけはし』新聞を送付し利用者の暮らしぶりをお知らせし、個別には毎月コメントを書き添えたり訪問時や電話でも報告している。職員の異動は運営推進会議で伝えている。金銭管理は行っていないが利用料は月1回報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも遠慮なく言ってもらえるよう折にふれ伝えている。また生活状況等を伝える中で意見要望をくみ取ったり、アンケートを実施しそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが勤務体制を考慮し、利用者のダメージに配慮した上で最小限に行っている。普段からユニット間の交流もあり利用者への影響は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必要におおじて管理者が声掛けを行い出席している。出席者は報告書を作成し全体に周知している。内部研修は法人全体で年間計画を立て行っている。事業所内でも医療面、ケア面等の議題で全員が出席できるよう数回開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流に努めている。事業所の見学も行っている。	○	様々な機会を通し交流することで困難事例やアドバイス等もらい質の向上に繋げるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	アセスメントや家族の希望を重視し、見学やレクリエーションに参加してもらい数時間共に過ごし雰囲気を感してもらいながらサービスを開始している。利用開始後も家族と頻りに連絡を取るよう努め安心してもらうよう努めている。利用者同士も早くなじめるよう声掛けをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の知恵や習慣について教わることもあり家庭的な雰囲気の中で支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いを把握し、できるだけ利用者の希望を尊重するよう努めている。希望の表出が難しい方には表情や家族からの情報を得ている。職員間でそれらの情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の細かい要望も取り上げ、それを基に職員、栄養士、看護師、医師の意見を基にカンファレンスを開催し計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングやケアチェック表を基に3カ月に1回見直しを行っている。細かい見直しは随時、状態に変化があればその都度家族や必要関係者から意見を聞き現状に反映した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望で柔軟に対応している。家族も宿泊できるよう準備も整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診の支援は2週間に1回、訪問歯科は随時ある。協力医療機関も複数あり安心した医療を受けることができる体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針について家族に説明し理解を得ている。本人、家族の意思を尊重し職員、医師との連携を取り、ターミナルについての研修も積極的に行っていく予定である		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へのさりげない声かけに努め、プライバシーの確保や羞恥心に配慮している。個人記録は事務所に保管し取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおむねの流れはあるがこだわることなく利用者の気持ちを尊重し支援している。体操やレクへの参加は無理じいをせずまた、入浴や朝食時間等時間を遅らせるなど柔軟に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量で後片付けなど利用者とともにやっている。食事前に職員からメニューの紹介があり、食事に関心が持てるよう工夫や食前のお茶うがいや口腔体操をすることで飲み込みやすくなるよう配慮がされている。食べやすく工夫が施され職員は細やかに食を促す声かけをされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	状態や希望を考慮し、最低でも週2回入ってもらえるよう支援している。希望があれば夜間の入浴も可能である。併設の事業所にある展望浴場やジャグジーの利用もでき利用者の楽しみとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみの持てる生活となるよう心掛けた支援がされている。生活歴を把握し、園芸や習字、カラオケ、季節の行事など出番を見いだせるよう声かけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や季節の外出は頻繁に行われている。天気の良い日は広々としたテラスでお茶を楽しんだり、屋上の庭園で散歩したり気分転換するよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は3階にありエレベーターでの移動となっており安全に配慮している。ユニット間や居室は施錠されていない。帰宅願望の方には納得がいくまで職員が見守りその人に合わせた対応に心掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2階の消防訓練の実施がされている。運営推進会議で地域の方へ協力をお願いをし、また町内会と防災協定の取り決めもしている。スプリンクラーの設置もしマニュアルの整備もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適切な栄養摂取に努め管理栄養士指示の下の献立となっている。利用者の好みなども反映させるよう取り組んでいる。水分摂取量は最低でも1000CC摂取に努め医師の指示で制限が必要な方にも個々に合わせ確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共有空間は明るい雰囲気ですっきりとした気分で過ごせるよう配置され季節の飾り付けや調度品がある。適温で換気も十分されている。キッチンからは匂いや音が感じられ五感の刺激となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで生活してきた環境に合うよう部屋の配置や飾り付けがされている。居室も清潔が保たれ利用者が落ち着ける場所となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム きららラポール尾道（ユニット星）

評価年月日 2010年 3月 2日

記入年月日 2010年 2月 5日

記入者 代表/管理者 氏名 生田 誠

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入所者が日々の生活に満足して頂く為の、運営基本理念を定め、取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議や月例会議において、理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。会議、ケアプラン等の話し合いの中で、理念の共有が出来るように努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議等において、家族や地域代表の方々に参加してもらい、理念を共有し、積極的に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者、職員が利用者様とともに、地域への外出、散歩、行事への参加などを実施し、地域に出向き、町内会や地元民生委員を通じて、地域との関わり合いを密接にして頂けるように声かけを行っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	もちつきや夏祭りを地域の方と一緒に開催して親交を深めている。又、地域老人会の伝統的な夏祭り行事に参加させてもらい、一緒にカラオケなどを楽しむなど交流を深かせていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所全体で、地域の介護に関する相談を随時受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	情報を共有し、常に向上心を持ち、より良い事業所運営に生かすように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議等において、家族や地域代表の方々に参加してもらい、現状の生活や取り組みを報告し、意見等を取り入れ、サービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	尾道市の担当者とは頻回に電話連絡や、訪問させていただきながら、情報提供や相談、指導にあたって頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員が共に研修会等を持ち、援助の必要な方には、活用できるように支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修会等で学ぶ機会を持ち、虐待が起こることがないように注意を払い、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約に際しては、十分な説明を行い、経過観察期間を持ち、理解、納得を図っている。又、最近1年間は、解約に至ったケースも無い。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情があれば、出来るだけ改善、実現出来るように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時や電話等で報告している。又、要望などあれば、運営推進会議においても報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2カ月に1回の運営推進会議や面会時等において、家族からの意見を頂戴し、それらを地域代表の方々や行政関係者に傾聴してもらい、生活状況の改善に意見等を取り入れ、サービス向上に生かしている。(家族代表も出席している)</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者、職員が共に研修会等を持ち、意見や提案があれば傾聴し、業務改善に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準人員を上回る人員確保をしており、夜間についても宿直者の人員確保や、必要に応じて勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎の職員を固定し、異動を極力最小限に抑え、異動がやむなく必要な場合は、利用者に動揺がないように配慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や外部研修に参加させ、人材の育成・向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学し、事業者の交流会に参加し、他の事業所の状況や取り組みについて意見交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会等を開催し、管理者や職員間のストレス軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	巡視・訪問をし、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の了解・同意を得ながら家族とも連絡を取り合い、援助内容についての方針を決めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・利用に至り、一番求められていることなど、利用者に安心出来る説明が出来るように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険制度の概要やサービスを説明し、まずよく話し合い、ニーズを把握し、当面必要と感じている事項から始めている。その後は、他のサービスも含めて考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気を考慮して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で、喜怒哀楽を共有し、助け合いながら学んでいる。日々共に支えあい、喜怒哀楽を共にし、互いに相手を尊重している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事で来所された際に、利用者様の状況を率直にお話させていただき、ご家族と一緒に相談したり考えたりしている。	○	利用者様の日々の生活を詳しくお知らせすることにより、ご家族様にも認知症に対する理解を深めていただき、共に支えあう関係を構築していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時に、本人と家族がより良い関係を保てるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会や、各居室には馴染みの物品を持参していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が一人孤立しないように気をつけながら利用者同士が仲良く助け合えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて電話連絡したり、訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向がはっきりしている人が少ない中、日常的な活動に参加してもらった時の様子を観察し、把握に努め、ケアプランに反映するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は介護に生かし、入居時の経歴で不十分な処は、家族等から意見を聞き、参考にしている。話される内容やしぐさからも、くみ取って把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のアセスメント表を用いて、状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様・ご家族双方のニーズを聞き取りながらケアプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回の定期的な見直しと、入院等で状態の変化が生じた際には随時ケアプランを見直し、ご家族様の同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録とは別に、申し送りも記録し、情報を共有している。又、ユニットミーティングやカンファレンスでも協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様が希望されれば、宿泊や食事のできるように配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署立会の消防訓練も年2回は実施し、地元町内会とも連絡を取り合いながら、認知症の方がおられることを理解していただいております。徘徊等についても、地元警察への協力体制はできている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの方にも、毎回運営推進会議に出席して頂いており、必要に応じて情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議構成員に就任していただき、ホームの取り組み状況を報告するとともに、意見等を伺っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関主治医の診察を基本に、専門外や異変があれば他の医療機関を紹介したり、ご家族様の希望される医療機関に受診いただいている。又、主治医よりご家族様に直接説明いただくこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地元の総合病院にも、協力医療機関になってもらっており、認知症についても専門知識を生かし、指導して頂いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一事業所内に配置している担当の、馴染みの看護職員が相談にあたるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院時の自前訪問。カンファレンスへの参加を行い、情報交換や相談に乗っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は、医師・看護師・家族等と話し合い方針を決めるようにしている。	○	現在は前例もなく、実際に話し合ったことがないため、今後に向けて、理解を深められるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルの整備や、今後に向けて絶えず協議を行っている。関係医師と相談を取りながら、今後の変化に備え、正しい見極めが出来るようにしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居、退所時は、関係者、家族等に連絡をとり、必要な情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ利用を減らし、定期的に誘導し、習慣付けを支援している。下清拭を毎日行い、清潔保持に心がけている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天天然温泉を特色とし、入浴はジャグジー風呂や小浴、大浴室を利用し、なるべく利用者の都合に合わせての入浴が出来るようにしており、利用者・家族に満足していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみ事や出番を見い出せるように、園芸やカラオケ、買物等の支援を行っている。	○	これからも、外出支援や趣味活動の充実を考えながら、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は、紛失などを防止する観点から、自己所持をしてもらっていない。家族の了解のもと、少額のみ自己管理している人もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買物や、医療機関への受診など支援している。出来るだけ希望に沿うように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、初詣で、紅葉狩りドライブなどの機会を通じて、普段は行けないような場所への外出支援も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制は基本的に行っておらず、手紙のやり取り、年賀状なども郵送している。又、ご家族よりの外線電話の取り次ぎ支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も夜間20:00とし、極力自由な訪問が出来るように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等により全ての職員が理解している。ただし、緊急やむを得ない事由のある利用者様については、ご家族様に同意書を記入いただいたうえで実施しているケースが過去にはあったが、現在ははいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、複合ビルであり、2Fフロア内は鍵を施錠することがないようにし、自由に移動できるようにしている。外部への外出は、付添を伴うので、施錠をさせてもらっているが、利用者様の要望によりいつでも開錠しており、利用者様・ご家族様ともそのことを理解されている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が定期的に巡回、見守りし、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、手の届かない場所や鍵のかかる物品庫に収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を行うとともに、事故報告書を作成し、個別に事故防止策を職員間で協議している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	尾道市消防署員による救急救命講習を定期的に受講している。中でもAEDの実施講習は頻回に行い、緊急時の対応に万全を期すようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は避難訓練を行い、利用者様に意識していただくとともに、所轄の尾道市消防署から指導をいただいている。地域の方にも協力していただけるように、地元町内会と相互に防災協定を結んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居後の状態変化があった際には、その都度説明をして、ご家族の理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや体調管理を個人ごとに記録しており、変化があれば必要に応じて主治医に相談している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方内容や薬効の一覧表を作成し、職員間で周知している。又、服薬内容の変更等については、業務日誌や申し送りにて周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様ごとの排泄記録をし、食事や運動について気をつけており、主治医とも連携を図りながら予防対策を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施し、状態確認を行っている。又、自立の方へは声かけや見守りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量ともに記録しており、状況を把握している。また、管理栄養士の栄養管理のもと、お茶やゼリー、トロミ剤を活用した好みの飲み物を用意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しており、施設内研修でも予防対策に万全を期している。アルコール、次亜塩等で拭くように定めており、消毒も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、食器乾燥機にて温熱殺菌し、布きん等は次亜塩消毒を行っている。また、食材についても安全食材を提供できる業者を選択しており、事故米問題やメラミン問題などの事件が発生した場合は、直ちに安全についての確認証を発行していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常時、広く開放しており、ベンチやプランターを配置し、温かみを出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りとして、室内には観葉植物や季節ごとの生花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー、ソファ、デッキテラスを配置しており、思い思いの居場所作りを工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や生活用品の持ち込みをお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部分は熱交換機を24時間運転し、換気を行っている。又、天候の良い日には窓を開けるなどし、自然の風を取り入れている。居室の換気は食事に行う等、定期的実施している。又、冷暖房の調整も職員が随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や浴室、トイレ等に手すりを設置したり、滑り止めマット、車いすなどを用意している。又建物は、全てバリアフリー化されており、出来るだけ自分で生活していただけるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残された力を使っただけできるよう自立支援の立場に立って援助している。わかりやすい表示を施したりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキテラスには菜園や花壇を設けており、職員と利用者様が一緒に野菜や花の栽培をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

星ユニット

- ・毎食後の口腔体操を行い、嚥下をスムーズに行うことと、体を動かすことの習慣付けを行っている。
- ・主治医やご家族と連携を図りながら、利用者様の健康的な毎日の生活に努めている。

アピール・個性的な利用者様の日常において、利用者間のトラブルを回避するように心がけ、スキンシップやきめ細やかなコミュニケーションを図り、穏やかな日常生活が送れるように努めています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム きららラポール尾道（ユニット虹）

評価年月日 2010年 3月 2日

記入年月日 2010年 2月 5日

記入者 代表/管理者 氏名 生田 誠

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入所者が日々の生活に満足して頂く為の、運営基本理念を定め、取り組んでいる。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議や月例会議において、理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。会議、ケアプラン等の話し合いの中で、理念の共有が出来るように努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2カ月に1回の運営推進会議等において、家族や地域代表の方々に参加してもらい、理念を共有し、積極的に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者、職員が利用者様とともに、地域への外出、散歩、行事への参加などを実施し、地域に出向き、町内会や地元民生委員を通じて、地域との関わり合いを密接にして頂けるように声かけを行っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	もちつきや夏祭りを地域の方と一緒に開催して親交を深めている。又、地域老人会の伝統的な夏祭り行事に参加させてもらい、一緒にカラオケなどを楽しむなど交流を深かせていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所全体で、地域の介護に関する相談を随時受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	情報を共有し、常に向上心を持ち、より良い事業所運営に生かすように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議等において、家族や地域代表の方々に参加してもらい、現状の生活や取り組みを報告し、意見等を取り入れ、サービス向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	尾道市の担当者とは頻回に電話連絡や、訪問させていただきながら、情報提供や相談、指導にあたって頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員が共に研修会等を持ち、援助の必要な方には、活用できるように支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修会等で学ぶ機会を持ち、虐待が起こることがないように注意を払い、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約に際しては、十分な説明を行い、経過観察期間を持ち、理解、納得を図っている。又、最近1年間は、解約に至ったケースも無い。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情があれば、出来るだけ改善、実現出来るように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時や電話等で報告している。又、要望などあれば、運営推進会議においても報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2カ月に1回の運営推進会議や面会時等において、家族からの意見を頂戴し、それらを地域代表の方々や行政関係者に傾聴してもらい、生活状況の改善に意見等を取り入れ、サービス向上に生かしている。(家族代表も出席している)</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者、職員が共に研修会等を持ち、意見や提案があれば傾聴し、業務改善に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準人員を上回る人員確保をしており、夜間についても宿直者の人員確保や、必要に応じて勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎の職員を固定し、異動を極力最小限に抑え、異動がやむなく必要な場合は、利用者に動揺がないように配慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や外部研修に参加させ、人材の育成・向上に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学し、事業者の交流会に参加し、他の事業所の状況や取り組みについて意見交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会等を開催し、管理者や職員間のストレス軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	巡視・訪問をし、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の了解・同意を得ながら家族とも連絡を取り合い、援助内容についての方針を決めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・利用に至り、一番求められていることなど、利用者に安心出来る説明が出来るように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険制度の概要やサービスを説明し、まずよく話し合い、ニーズを把握し、当面必要と感じている事項から始めている。その後は、他のサービスも含めて考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気を考慮して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活の中で、喜怒哀楽を共有し、助け合いながら学んでいる。日々共に支えあい、喜怒哀楽を共にし、互いに相手を尊重している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事で来所された際に、利用者様の状況を率直にお話させていただき、ご家族と一緒に相談したり考えたりしている。	○	利用者様の日々の生活を詳しくお知らせすることにより、ご家族様にも認知症に対する理解を深めていただき、共に支えあう関係を構築していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時に、本人と家族がより良い関係を保てるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由な面会や、各居室には馴染みの物品を持参していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が一人孤立しないように気をつけながら利用者同士が仲良く助け合えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて電話連絡したり、訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向がはっきりしている人が少ない中、日常的な活動に参加してもらった時の様子を観察し、把握に努め、ケアプランに反映するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は介護に生かし、入居時の経歴で不十分な処は、家族等から意見を聞き、参考にしている。話される内容やしぐさからも、くみ取って把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のアセスメント表を用いて、状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様・ご家族双方のニーズを聞き取りながらケアプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回の定期的な見直しと、入院等で状態の変化が生じた際には随時ケアプランを見直し、ご家族様の同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録とは別に、申し送りも記録し、情報を共有している。又、ユニットミーティングやカンファレンスでも協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様が希望されれば、宿泊や食事のできるように配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署立会の消防訓練も年2回は実施し、地元町内会とも連絡を取り合いながら、認知症の方がおられることを理解していただいております。徘徊等についても、地元警察への協力体制はできている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの方にも、毎回運営推進会議に出席して頂いており、必要に応じて情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議構成員に就任していただき、ホームの取り組み状況を報告するとともに、意見等を伺っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関主治医の診察を基本に、専門外や異変があれば他の医療機関を紹介したり、ご家族様の希望される医療機関に受診いただいている。又、主治医よりご家族様に直接説明いただくこともある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地元の総合病院にも、協力医療機関になってもらっており、認知症についても専門知識を生かし、指導して頂いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一事業所内に配置している担当の、馴染みの看護職員が相談にあたるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院時の自前訪問。カンファレンスへの参加を行い、情報交換や相談に乗っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は、医師・看護師・家族等と話し合い方針を決めるようにしている。	○	現在は前例もなく、実際に話し合ったことがないため、今後に向けて、理解を深められるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルの整備や、今後に向けて絶えず協議を行っている。関係医師と相談を取りながら、今後の変化に備え、正しい見極めが出来るようにしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居、退所時は、関係者、家族等に連絡をとり、必要な情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライバシーに配慮しながら介護や記録、個人情報を慎重に取り扱うよう徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の思いを聞きながら、わかる力に合った説明をし、納得してもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で行うこともあるが、個々のペースに合わせた生活を注意しながら支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者には2週間おきに、訪問理美容があるため、ご利用していただいている。誕生日や行事には、化粧、マニキュアなどを楽しんでもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけは行っているが、調理は自分たちがしないシステムになっている。後片付けなどは一緒に行ってもらっている。又、行事日には、調理も利用者と一緒にしたり、外食をするようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝食のパン食は、本人の希望を尊重している。医師の指示のもと、トロミ、きさみ、粥等の状況に合わせている。又、ご家族が食べさせてほしいと持参したものを食してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ利用を減らし、定期的に誘導し、習慣付けを支援している。下清拭を毎日行い、清潔保持に心がけている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天天然温泉を特色とし、入浴はジャグジー風呂や小浴、大浴室を利用し、なるべく利用者の都合に合わせての入浴が出来るようにしており、利用者・家族に満足していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみ事や出番を見い出せるように、園芸やカラオケ、買物等の支援を行っている。	○	これからも、外出支援や趣味活動の充実を考えながら、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は、紛失などを防止する観点から、自己所持をしてもらっていない。家族の了解のもと、少額のみ自己管理している人もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買物や、医療機関への受診など支援している。出来るだけ希望に沿うように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、初詣で、紅葉狩りドライブなどの機会を通じて、普段は行けないような場所への外出支援も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制は基本的に行っておらず、手紙のやり取り、年賀状なども郵送している。又、ご家族よりの外線電話の取り次ぎ支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も夜間20:00とし、極力自由な訪問が出来るように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等により全ての職員が理解している。ただし、緊急やむを得ない事由のある利用者様については、ご家族様に同意書を記入いただいたうえで実施しているケースが過去にはあったが、現在は無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、複合ビルであり、2Fフロア内は鍵を施錠することがないようにし、自由に移動できるようにしている。外部への外出は、付添を伴うので、施錠をさせてもらっているが、利用者様の要望によりいつでも開錠しており、利用者様・ご家族様ともそのことを理解されている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が定期的に巡回、見守りし、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、手の届かない場所や鍵のかかる物品庫に収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修を行うとともに、事故報告書を作成し、個別に事故防止策を職員間で協議している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	尾道市消防署員による救急救命講習を定期的に受講している。中でもAEDの実施講習は頻回に行い、緊急時の対応に万全を期すようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は避難訓練を行い、利用者様に意識していただくとともに、所轄の尾道市消防署から指導をいただいている。地域の方にも協力していただけるように、地元町内会と相互に防災協定を結んでいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居後の状態変化があった際には、その都度説明をして、ご家族の理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや体調管理を個人ごとに記録しており、変化があれば必要に応じて主治医に相談している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方内容や薬効の一覧表を作成し、職員間で周知している。又、服薬内容の変更等については、業務日誌や申し送りにて周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様ごとの排泄記録をし、食事や運動について気をつけており、主治医とも連携を図りながら予防対策を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施し、状態確認を行っている。又、自立の方へは声かけや見守りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量ともに記録しており、状況を把握している。また、管理栄養士の栄養管理のもと、お茶やゼリー、トロミ剤を活用した好みの飲み物を用意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しており、施設内研修でも予防対策に万全を期している。アルコール、次亜塩等で拭くように定めており、消毒も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、食器乾燥機にて温熱殺菌し、布きん等は次亜塩消毒を行っている。また、食材についても安全食材を提供できる業者を選択しており、事故米問題やメラミン問題などの事件が発生した場合は、直ちに安全についての確認証を発行していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常時、広く開放しており、ベンチやプランターを配置し、温かみを出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りとして、室内には観葉植物や季節ごとの生花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー、ソファ、デッキテラスを配置しており、思い思いの居場所作りを工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や生活用品の持ち込みをお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部分は熱交換機を24時間運転し、換気を行っている。又、天候の良い日には窓を開けるなどし、自然の風を取り入れている。居室の換気は食事中に行う等、定期的実施している。又、冷暖房の調整も職員が随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や浴室、トイレ等に手すりを設置したり、滑り止めマット、車いすなどを用意している。又建物は、全てバリアフリー化されており、出来るだけ自分で生活していただけるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残された力を使っただけできるよう自立支援の立場に立って援助している。わかりやすい表示を施したりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキテラスには菜園や花壇を設けており、職員と利用者様が一緒に野菜や花の栽培をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

虹ユニット

- ・利用者様が健康的に過ごして頂けるよう日々のバイタルチェックを行い、状態把握に努めている。
又、感染予防のため、食前後のうがい、手すり等の消毒の徹底に努めている。
- ・個々のレベルアップを目指し、主治医やご家族と連携を図りながら、個別の運動メニューを作成し、実施している。

アピール・ゆったりとした時間の中で、きめ細かなケアを行っている。